

昆虫や植物の写真を愛好する方々が、自分の好みのフィールドをいくつか持っていると思います。それは、季節や撮影した対象によって、変わるものでしょう。同じように、天体写真を撮影する者にとっても、自分だけの好みの撮影地というものがあるものです。私の場合、北軽井沢小学校裏の畑、孀恋村仙ノ入（せんのいり）、長野県川上村、北軽井沢群高（ぐんこう）地区などです。最近、石垣島の南海岸が加わりました。

さて、良い天体写真を撮れる場所の条件としては、次のようなものが挙げられます。

- (1) 周囲が開けていること。可能なら東西南北に、樹木や人工物などの障害物がないこと。
- (2) 周囲に人工的な灯火（街灯、民家の灯火、信号、自動車道）や、街明かりがないこと。
- (3) 赤道儀の設定の為に、北極星が視認できること。
- (4) 標高 1000m 以上で、空気が澄んでいること。

実は関東甲信で、これらの条件を完全に満たしている場所は、ほぼ皆無と言って良いと思います。空の暗い北軽井沢ですら、東側に高崎や前橋、南側に軽井沢の街明かりがあり、地平線付近の星の撮影を邪魔しています。

私が好んで足を運ぶ観測地の一つに「小諸市北郊外」があります。小諸市の市街地は千曲川の河岸段丘に発達していますが、この観測地はもっと上（北より）の段丘にあります。実は南側に小諸市の街明かり、北側に夜間でも交通量の多い自動車道があり、天体写真の撮影地としては「最低」の場所です。しかし、私は人工的な灯火…つまり「ヒトの営み」と、天然の光…つまり「深宇宙の営み」の組み合わせ…という天体写真が好きなのです。先日も、久しぶりに友人とこの場所に行き、100枚近くの天体写真を撮影してきました。何回かに分けて紹介したいと思います。

(2024年7月下旬／長野県小諸市)

